

第七十三回卒業式式辞

「岩注ぐ 清水も春の 声立てて うちや出でつる 谷の早蕨」

かの有名な歌人、藤原定家は、長い冬を終え、漸く訪れた春の喜びをこのように詠っています。自然の営みは実に確かで、ここ自彊が丘の木々も生命の兆しを内に抱き、窓越しに差し込む光も、日増しに柔らかさを増して、春の訪れが近いことを予感させます。

本日は、PTA会長様、保護者の皆様のご臨席を賜り、このように厳粛に本校第七十三回卒業証書授与式を挙げてまいりますことに心から感謝いたしますとともに厚くお礼申し上げます。

七十三回生の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただ今卒業証書を授与いたしました三四八名の皆さんに、本校教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

教育においては、「不易流行」ということが言われます。皆さんは入学以来、本校の「不易」の部分、人づくりの基盤をなす建学の精神「自彊不息」のもと、進路実現を目指して濃密で充実した時間を過ごしてきました。一方で、「流行」の部分、豊かな人間性と、これからの時代に求められる主体性や協働性などを育むさまざまな教育活動に澁刺として情熱を注いできました。そうした皆さんのひたむきで真摯な、そして躍動する姿は、山中良秀学年主任が繰り返し皆さんに伝えた、大学入試改革への「変化を楽しむ」、明高の新たな流れを作る「七十三回生、波を起こす」というメッセージの具現化そのものであり、それは未来を切り拓く基盤として皆さん一人一人の心の中に息衝き、大きな支えとなることを強く確信しています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、臨時休校を余儀なくされたばかりか、授業や学校行事の見直し、部活動における各種大会の中止など、教育活動にも大きな支障が出ました。こうした状況下にあっても、卒業生の皆さん、また保護者の皆様のご理解とご協力によりこの難局を乗り越え、今日この日を迎えることができたと思っております。本当にありがとうございました。

ところで、コロナ禍のこの一年で、当たり前だと思われてきた社会常識が激変しました。社会基盤の脆弱性を露呈した一方で、コミュニケーションのツールやシステムが顕著な進展を見せ、新たな生活様式や価値観、従来にないビジネスなどが生み出されています。また、SNSやサブスクリプションなど、身の回りの製品やサービスが日本標準から世界標準へと大きく転化しています。さらに、社会の仕組みや産業構造がクラウド化・オンライン化・リモート化を辿り、ニューノーマルが形成されつつあります。アフターコロナ、ニューノーマル時代を生き抜く上で、不透明・不安定・不確実な時代であるからこそ、自分の拠って立つ基軸を見失うことなく、しっかりと地に足を据えて生き抜いてほしいと思います。その意味において、今後特に大切にしてほしい三つの基軸を皆さんに伝えて餞別にしたいと思います。

一点目は、大きな志を持ち続けてほしいということです。

苦境に陥った時、それに屈せず乗り越えるための気力の根幹を成すものは高い志であり、それは人間性を高めるものでもあります。幕末に活躍した吉田松陰は、「志のない人間は、魂のない人間に等しい」と言ったそうですが、志を立てることは、人として人らしく生きるための原点ともなります。松陰の言う志とは、世俗的な意味での立身出世ではなく、国

家の危機を救うほどの大きなものです。松陰の時代と今とでは時代背景は大きく異なりますが、今日のように変化の著しい多様化した社会においてこそ、志の高い、展望のきいた人材が求められているのです。

二点目は、挑戦する勇気を持ち続けてほしいということです。

「才能はたいていの人を持っている。大切なのは、才能のあるなしではなくて、それを発揮するエネルギーがあるかどうかだ」と言ったのはアニメーション作家の宮崎駿氏です。人には無限の可能性と創造力があると言われる。それを発揮するには、無論、知識や経験、環境などさまざまな条件が必要ですが、何よりその原動力となるのは、エネルギー、つまり挑戦する勇気です。現状を受け入れてそれに甘んじてしまえば、それ以上の成長は望めません。困難に直面した時、考えに考え抜いて挑戦し続ければ必ず道は拓けます。いかなる状況に置かれようとも、挑戦する勇気を持ち続け、自らの道を自らの力で切り拓いていってください。

三点目は、感謝の気持ちを持ち続けてほしいということです。

時に厳しく諭し、時に温かく見守ってくださった先生方、三年間ここ明高で同じ時空を共有し、喜びも悲しみもともに分かち合ったかけがえのない七十三回生の仲間、いつも大きな愛情で包み、陰から支え応援してくれた家族、PTA、同窓会、そして地域の方々。皆さんが今日、卒業の日を迎えることができたのは、もちろん、皆さんの弛まぬ努力によるのですが、その裏にはこうした多くの方々の励ましやご支援があったからこそです。「感謝の心が人を育て、感謝の心が自分を磨く」、これはアメリカの実業家、スティーブ・ジョブズ氏の言葉ですが、感謝の気持ちを決して忘れることなく、心豊かに生きてください。

保護者の皆様には、この場を借りまして一言申し上げます。この三年間、本校の教育方針をご理解いただき、ご協力賜りましたことに厚くお礼申し上げます。お子様は、大きく、立派に成長され、今日この学び舎から巣立っていかれます。この十八年間、言葉には尽くせぬほどのご苦勞があったこと、また春から親元を離れていくことに一抹の不安と大きな寂しさを感じておられることと推察いたしますが、今日この日を迎えられ、心からお慶びとお祝いを申し上げます。今後とも引き続き、本校に対して変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、不思議な縁でここ明高に集い、ともに育んだ校訓「自治・協同・創造」の精神、校歌にある「集え・競え・誓え」の気概、学年通信「ウイ アー ザ チャンピオンズ」の気炎。これらを深く胸に刻んで、皆さん一人一人の活躍が母校の喜びや励みになることを、そして七十三回生全員の力になることを忘れず、命を大切に、自信と誇りをもって、悔いのないすばらしい人生を歩んでいかれることを祈念しています。

「別れをば 山のさくらに まかせてむ とめむとめしは 花のまにまに」

卒業生の皆さんに限りない惜別の思いを残しつつ、その洋々たる前途を祝して、式辞といたします。